参考資料２

〔仮称〕認知症当事者の思いを知るキャンペーン（案）

平成２９年３月１５日　精道高齢者生活支援センター・基幹的業務担当針山

（平成２９年３月１５日　地域ケアシステム検討委員会での協議を経て修正）

１　認知症地域支援推進員が考える課題～平成２７年度からの活動を通して～

- 認知症サポーター養成講座の開催等で地域住民の認知症理解は少しずつ広がりつつあるが，地域の事業者（例；商業施設等）への啓発は不十分。
- イベントの開催等により「認知症（になること）を予防したい」という意識―広義の介護予防に対する意識―は住民に広がりつつあるが，一方で「認知症になったら大変なことになる」といったネガティブな意識も拡がっている。例えば，「認知症になっても周囲のちょっとした支えがあれば大丈夫」といった啓発手法の工夫が必要。
- 認知症地域支援推進員がそのような「ちょっとした支え」を，介護等の「専門的支援」から考えてきていたため，あらためて当事者や当事者を支えている家族から「思い」や「気持ち」を聞かせてもらうことが重要。

２　認知症地域支援推進員の活動の方向性

- 「認知症の方が気兼ねなく集える居場所」，「地域でのちょっとした見まもりやサポート」等を地域で醸成していく必要性がある。しかし，その前に「認知症の方やその家族がどのような思いを持って暮らしているか」をあらためて把握した上で具体的な方策を検討する。
- ２つのプロジェクトチームを組織し水平展開する。プロジェクトチームには認知症サポーター養成講座修了者等の地域住民の参加と協力を得ながら進めたい。
- そもそも小地域福祉ブロック会議から挙げられてきた課題でもあるため，地域発信型ネットワーク全体との連携・協働展開したい。

〔仮称〕認知症の方の思いを知るキャンペーン

プロジェクトＡ
当事者インタビュー

認知症当事者やその家族にインタビューを実施し，直接思いをきかせてもらう。

プロジェクトＢ
事業者アンケート

見守り登録事業所（商店，店舗）等に認知症の人へのサポート等に関するアンケート調査を実施する。

※　市内４か所の高齢者生活支援センターに配置されている認知症地域支援推進員がプロジェクトチームをリードする。

※　プロジェクトチームには，認知症サポーター（養成講座修了者），認知症キャラバンメイト，介護相談員等の参画を呼びかける。

３　具体的な進め方（展開フロー）

両プロジェクトのメンバー募集開始

↓

プロジェクトチーム組織化（平成２９年４月１３日）
キックオフミーティング
※以下，チームは２つに分離して水平展開
※プロジェクトは認知症地域支援推進員がリード

↓

インタビュー・アンケートは内容や方法もプロジェクトチームで検討

プロジェクトＡ
会議

プロジェクトＢ
会議

↓

平成２９年度　小地域福祉ブロック会議（平成２９年６月）
平成２９年度　中学校区福祉ネットワーク会議（平成２９年５月）
プロジェクトチームの活動への協力依頼

介護予防自主グループ活動報告会（５月２７日）でも募集

↓

インタビューとアンケートは７月頃に実施

プロジェクトＡ
インタビューの実施

プロジェクトＢ
アンケートの実施

↓

平成２９年度　第１回地域ケアシステム検討委員会（平成２９年９月中旬）
プロジェクトチームの活動状況の報告（まとめ）
検討議題：プロジェクトリーダーからの結果報告と課題提起

プロジェクトチームの活動は９月末をめどに収束

↓

平成２９年度　中学校区福祉ネットワーク会議（平成２９年１０月中旬）

認知症ケアパス作成
プロジェクトチーム発足

※ 中学校区福祉ネットワーク会議の横だしプロジェクトチームとして組織

平成２９年度　小地域福祉ブロック会議（平成２９年９月下旬）

地域アセスメント中間報告
“当事者の声を地域課題に”

※ メンバーは有志として小地域福祉ブロック会議への残留を呼びかける